MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

闘志より発信！

No. 231

【発行・編集】
MASUKI情報デスク
増木直美
大阪府豊中市上新田2-6-25-113
TEL　090-3710-4815
FAX　06-6835-0974
http://mid.parfe.jp/
mid@jewel.ocn.ne.jp

● 祝祭日には国旗を掲げましょう・卒業式には「仰げば尊し」を！

ヘヴニーズ東京公演再開！

令和2年最後のHEAVENESE BRIDGE感激を伝えたい

NPO法人百人の会理事　空花正人

時は11月2日（月）夕刻、この日も1年前同様雨だった。場所も同じ日本橋三井ホール。私がヘヴニーズに接した最初の日からはや1年が経った。しかしその間、実に濃い関係を持てたのは、まさしくヘヴニーズ（天国民）の芸術的才能と座長で牧師の石井希尚氏（マレ）の人間力の魅力による。今年1月の世田谷区立山崎小学校での学校プロジェクトまでは順調な出だしであったが、降って湧いた武漢テドロス肺炎の騒動で、3月には2校目になる大阪の泉北小学校の公演は、東京は白金高輪の小ホールにおいて無観客ライブ中継で開催する羽目になったり、今年初の4月5日の三井ホールでのコンサートも一旦5月に延期となった。しかし彼らの音楽活動はその日から、調布市仙川の活動拠点であるKBC（キックバックカフェ）で毎週欠かさず精力的に、オンライン配信の形式で継続してくれた。世の中まだ不安げな中、少しだけ規制緩和がなされ、8月16日にようやく三井ホールで、春から2回も延期されていたライブコンサートが挙行されたことはファンにとって大いなる勇気づけとなった。

先ずヘヴニーズ音楽一座のマレ座長による開演の舞台挨拶から始まった。

人々は見えない恐怖に脅えている。しかし、古来日本人は未知なる物を鬼や妖怪とみなしてきた。畏怖と娯楽のない交ぜでごく普通に日常生活とともにあった。疫病とも戦ってきた。怪談話、ゲゲゲの鬼太郎、鬼滅の刃など日本人に愛されている。

それら鬼や妖怪の最高位が天狗であった。舞台スクリーンに映し出された天狗の姿を見て何を思うか。その大きく長い鼻、前頭部には修験者（山伏）が着ける頭襟または兜巾（読みはいずれも　ときん）、それはまさしくユダヤの預言者モーセ、あるいは宗教的指導者ラビの姿ではないのか。左手には虎の巻を携えている。そう、虎の巻はトーラの巻き物なのだ。日本には随所に古代シルクロードを渡ってきたユダヤ文化がある。天狗が篭る都の北の鞍馬山、牛若丸（源義経）は天狗から武術、兵法を習う。かの有名な一の谷合戦での鵯越の逆落としは馬を巧に操る能力に長けた天狗の教えの賜物。やがて平家を破り、源氏が武家社会を形成した。舞台では三味線奏者で日舞の達人でもあるモトキが天狗の舞を舞う。そして八幡太郎義家に連なる源氏血統の徳川家の御世、江戸は栄えた。三井ホールのある此処日本橋室町には、源義家朝臣が深く崇敬し、徳川将軍家康公も合祀されている福徳神社（芽吹稲荷）がある。https://mebuki.jp/

歴史の中で廃れていたのを平成の町づくりに尽力した日本橋の人々は、この神社を復興させた。江戸時代の日本は動物天国でもあった。世界中で最も長く、265年も平和な社会が続いた。

その平和を破ったのがペリー率いる黒船だった。ところが異国人たちが見て驚いたのは、日本人女性のたおやかさであった。男は女に歌を捧げて恋心を伝えた。それが七、七、七、五調の「都都逸」である。あの幕末維新の志士、高杉晋作

《3頁頭へ続く→》

（ヘヴニーズ一座の女将　KUMIKO）

「M情報」は連合艦隊です。その旗艦が「NPO法人百人の会（理事長、辻淳子大阪市会議員）」。2番艦「英霊を被告にして委員会」、3番艦「憲法一条の会」。4番艦「救う会大阪」。5番艦「台湾籍日本人支援の会」これらに頂だいたご意見等をM情報の責任で発信。

≪M情報活動報告≫編集指針；政治や国際問題、市民活動に全く無縁だった一般の人達に、「おばちゃん語」で政治を届ける

今月の新聞報道・ニュース等

皇族女子の結婚後、特別職「皇女」創設…政府が検討

11/24（火）　読売新聞

政府は、皇族減少に伴う公務の負担軽減策として、結婚後の皇族女子を特別職の国家公務員と位置づけ、皇室活動を継続してもらう制度を創設する検討に入った。「皇女」という新たな呼称を贈る案が有力視されている。皇族女子が結婚後も皇室にとどまる「女性宮家」の創設は見送る方向だ。現在、女性皇族13人のうち、6人が未婚の皇族女子だ。6人は天皇、皇后両陛下の長女愛子さま（18）を含めた全員が30歳代以下で、皇族女子の結婚が続けば、分担している公務の遂行が困難になる恐れがある。新たな制度は、皇族女子が結婚とともに皇室を離れる皇室典範の規定を維持したまま、特例法を制定し、結婚後も公的な立場で皇室活動に関わってもらうことを想定している。公務員として手当も支給する。

群馬県　金沢春彦

やはりきましたね。反日共産勢力の最終目標は女性宮家創設で皇室乗っ取りですが、今回は世論の反発を配慮してワンクッション（特別職「皇女」）を入れてきたのだと思います。そして折を見て女性宮家に変更する意図がミエミエです。特別職「皇女」創設は事実上「女性宮家」創設の前段階と考えてよいのではないでしょうか。我が国は極めて危険な状況になってきました。反日極左の筆頭である「五百旗頭真」と「寺田逸郎」が皇室顧問になったことで皇室破壊は加速していくようです。

ナルホド、そう解しますか。私は政府が「女性宮家」を作りたくないから、特別職「皇女」創設で逃げたな。を、金沢氏とは逆に好意で見たのですが。私は政府性善説ですから。

不敬な言い方をすると、皇室公務にも1級と2級があり、1級は純皇族、2級は周辺皇族。下世話な言い方をお許しいただけるなら、下請けの制度化です。

マスキ

アイデンティティ主宰　葛目浩一

「皇女」創設に絶対反対です。それよりも、元宮家の復帰です。

仮に真子様が「皇女」になられ、あの男と結婚された場合、その「夫」の身分、あの「400万円借金、母親」の身分はどうなるのでしょうか？

日本は皇室を戴く立憲君主国　旧宮家の男系男子孫の方々に皇族復帰していただきたい

11/22（日）　夕刊フジ

【国家の流儀】　米大統領選ばかりが話題になったが、実は11月8日は、日本にとって重大な日であった。

この日、秋篠宮文仁親王殿下が皇位継承順位1位の皇嗣になられたことを、天皇陛下が内外に広く宣明になられる「立皇嗣宣明の儀」が皇居で執り行われたのだ。　現行憲法では「象徴」と規定されている天皇陛下について政府は「元首」だと解釈し、日本は立憲君主国だと考えてきた。例えば、47年前、田中角栄首相はこう答弁している。　《現在の憲法のもとでも、天皇は国の象徴であるという面、さらには、ごく一部ではございますが、外交関係において国を代表する面を持っておられるのでありますから、そういう面をとらえて元首という定義によるならば、天皇は元首であるということにもなる》（1973年6月13日、参院本会議）　よって今回の「立皇嗣宣明の儀」によって、立憲君主たる天皇陛下の後継者が、皇嗣の秋篠宮殿下であることが内外に示されたことになる。現行の皇室典範に基づき、その次の皇位継承者は悠仁親王殿下だが、こうした男系継承は皇室の伝統に基づいたものだ。

ちなみに今回、菅義偉首相ら三権の長をはじめとする内外の代表が参列した「立皇嗣宣明の儀」がテレビでは大きく報じられた。長い歴史と伝統を誇る皇室の儀式はこれだけではない。

この「立皇嗣宣明の儀」に先立ち、天皇陛下には皇居・宮中三殿において天照大御神を始めとする神々や歴代天皇に「立皇嗣の礼」を執り行う旨を奉告された。　そして、「宣明の儀」の後、皇居・宮殿「鳳凰（ほうおう）の間」で、壺切御剣（つぼきりのぎょけん）を皇嗣殿下に授けられた。この剣は、平安時代から皇太子相伝の由緒あるものだ。　その後、皇嗣・同妃両殿下には「賢所皇霊殿神殿に謁するの儀」と、天皇・皇后両陛下に立皇嗣宣明の儀をあげていただいたことへの御礼を申し上げる「朝見の儀」に臨まれた。　今後、政府としては改めて皇位の安定的な継承の方策を議論していくことになる。秋篠宮殿下より若い皇位継承権を持つ男性皇族が悠仁親王殿下しかおられないためだ。その具体策について、超党派の議員連盟（代表・古屋圭司衆院議員）が提言をまとめ、10日、加藤勝信官房長官に手渡した。提言では、皇位は古来より例外なく男系で継承されていることから、これを維持するために戦後、皇籍を離れた旧宮家の男系男子孫が皇族に復帰できるようにすることを求めている。　皇室は古来、日本の精神的支柱だ。その歴史と伝統を受け継ぐ旧宮家の男系男子孫の方々に、皇族に復帰していただきたいものだ。

■江崎道朗　評論家。1962年、東京都生まれ。アパ日本再興大賞を受賞。

《↓頁末尾より続く》

の都都逸は知っているだろうか。「三千世界の鴉を殺し　主と朝寝がしてみたい」である。モトキの歌と合わせる三味の音が心にしみる。「混乱する社会で大切なのは誰と歩いていくかだ」、とマレは訴えかける。

一転して、スパイの話になる。諸外国の諜報機関として、アメリカのCIA、イギリスのMI6、イスラエルのモサドなど知られているが、日本では、忍者がいた。忍者はまさに日本を代表する文化として定着している。漫画アニメの忍者ハットリくんの服部は、実在の服部半蔵から来ている。今の皇居西側の半蔵門周辺には服部家一門が住み江戸城を守った。彼がいなかったら天下泰平の時代は啓かれなかったし、忍者こそ日本の太平を守った功労者なのだ。

では、能楽師とは何だったか、彼等こそ公然と全国を巡り歩き、隠密裏に風土世情を調べあげ、情報収集を行った忍者だったのである。

ここで本公演の目玉、特別出演の能楽師、大倉正之助氏が大鼓を打ち鳴らしながら登場した。ヘヴニーズ後援会長の堤氏が、リハーサルを見て絶賛したと興奮気味に語っていたが、いよいよその本番実演のときがやってきた。

文字には表しにくいが、「イヨ〜〜、ホオ〜〜」、という腹の底から響き出る掛け声と、「カン」、と鼓の鋭くかつ高い音がホール内に満ち溢れ、ただただ見事な、言葉を失うひと時であった。聞くところによると、あれだけ激しく小刻みに鼓を打つ指には何も着けずに、あくまでも素手であるという。これにこそなお一層芸の深さと高貴さを感じるのである。ひとしきり大鼓ソロ演奏が続き、一座によるコロナウィルス騒動を皮肉るコントとミュージカル・コメディー「コロナ・ラプソディー」で皆笑い転げたあと、再びマレのトークとなった。

徳川慶喜の朝廷と先祖への忠義について語られ、「武士の最も気高い徳が慶喜の中に息づいていた」の決め台詞を待ちかねたかのような大きな見せ場となる三人羽織と称する大太鼓とドラムの乱打、そしてその前に立った大倉氏の大鼓との大迫力の競演となり最高潮を迎えた。余韻の冷めぬうちに始まったクミコのゴスペル独唱「Amazing Grace」、バラード２曲「生まれる前にいた場所へ」と　私のお気に入りの「Together」が演奏されるにつれ終演の予感がしたところ、演目最後は賑やかな「LIFT」で締められた。会場内総立ちで踊りかつ歌った。勿論私もその中の一人である。

舞台は暗転して静まり返ったが、それも束の間、会場からはencore!の声と拍手が途切れない。すると期待通り、いやそれ以上に感動的な、全員が小鼓を手にして登場し、大倉氏の所作に合わせて心一つの鼓打で締めくくられたのであった。大倉氏の語りには、伝統芸術を受け継ぎ発展させる並々ならぬ意志を感じる。鼓のことは楽器とはいわず道具といい、曲を演奏するというのでもなく、調べをともに生み出す働きをするという。上手にやろうとか感動を与えようなどという私利私欲から離れ、その場を取り囲む天と地の神々に捧げることだけを思うのである。ヘヴニーズ音楽一座もまさしくそのこと絶えず実践しているからこそ、老いも若きも幅広いファンの絶大なる信頼を得ているのだ。

そこでもう一人の貴重な感想文を紹介しよう。KBC店長の柳田曜兵氏である。仙川のカフェを仕切る傍ら、時にはマイケル・ジャクソンの扮装と小気味よいラップ、そして滑らかなムーンウォークでファンを楽しませてくれる好男子である。このたびの公演直後に、詩のような柔らかい文をフェイスブックに著し、コロナ禍に翻弄される世の現状を嘆いている。人々は、その惑い弱った心を癒すには、ヘヴニーズのメッセージや大倉正之助氏の鼓の調べに耳を傾けたらよい。

＊＊　柳田 曜兵のFBから　＊＊

まだ暗い森のなか靄のたちこめる湖面に反響するきつつきがつつく「音」とか雨あがり静寂につつまれる杉林、露の一滴が水たまりに落ちる「音」とか。これまで聴いたことのある音に例えると、こういう感じがいちばん近い。能楽師であり重要無形文化財総合指定保持者である大倉正之助さんをゲストに迎えての公演。ヘヴニーズの代表曲のひとつであるSILK ROADでは、悠久の時を経て受け継がれてきた壮大な意思とひとつになるような感慨を催した。

「音は奏でるのではなく、自分を通じて、そこにいる人、空間、時がもたらす『調べ』であり一期一会である」という正之助さんの言葉は、今日の分断された世の中にあってこの公演を象徴するかのようだった。そういえば、アンドレクラウチやシーラE、カークウェイラム、彼らも同じようなことを言っていた。大いなる存在の思いが自分を通じて現れているだけだと。また「能はその芸を通し、本来は生き方を伝えていくものであり、それをやらねばならない。時代に即したスタイルでそれを実現させているヘヴニーズをみて学んだ」と聞いた時は言葉にならなかった。

以前、武道をやる方からこんなことを聞いた。武道は奥義を口伝で伝えてきた。文書にしなかったのは、文字にすると頭の理解になる。それはつまり頭では理解できない領域があることを物語っている。コロナ禍で進んだリモート。非接触、非対面。社会的距離。あと数年もこのままであれば、人はよろこんだり、わらったり、おこったり、ないたりできなくなるのではないかと思う。感情のないひとが無表情で無関心でいる。これは、退化だ。

【大倉正之助さん略歴】

大倉流大鼓、小鼓十五世宗家・故大倉長十郎（父）より小鼓の稽古を受け九歳で初舞台、その後十七歳で大鼓方に転向し伝統的な能舞台での活動や能楽普及公演、講義の展開。その他、国内外の様々な表現者との共演や各国の式典において大鼓独奏を披露する等、メディアにも多数出演し日本文化の魅力を世界に向け発信し続けている。

各位・各団体等からの報告・ご意見

大阪都構想の次は難波宮（難波の都）構想でナニワの復活を

11月20日　北山細野の神主

維新の努力で大阪の財政改革は大幅に進み、より良い住民生活が実現すると期待していました。利権政治にドップリはまった既存の政党とマスゴミの傍目もかまわない妨害に、今回も残念な結果になりました。政治判断に対して民衆の理解を得ることの難しさをまたしても見ることになってしまいました。維新は新しい政党ですから勢力拡大を急ぎすぎたのか？先の国政選挙でも人気に乗って碌でもない候補を当選させたりボロが所々出ていました。私は今回の住民投票の失敗は鵺のような公明党を味方にしたと信じたことだと思っています。

先の大阪都構想の選挙で敗れた時には橋下徹氏が今回は松井市長が責任をとって辞めると発言されていますが、こう言う場合は勝って辞める（次の指導者にバトンタッチ）のが筋で負けた場合は残って次に備えるのが筋だと私は思うのですがどうでしょうか？　後には都構想住民投票より大阪にとって重大な大阪万博が控えているのです。松井代表、吉村知事、維新が縮んでしまったら大阪の地盤も縮んでしまいます。この際、橋下徹前代表にも顧問として参加してもらって維新のメンツにかけても大阪万博を盛大に成功させる責任が維新にはあるのです。

これまでにも大阪においては維新は大きな実績を残しているのは皆んなが認めていることですからこれから任期内に出来る限りの改革を実行して次の選挙に臨み維新勢力の拡大をはかり、大阪住民の信託にこたえる業績をつくれば次期選挙でも大幅な勢力の拡大は可能になります。大阪都構想などという東京都のまがい物を目標にするのではなく、商業、文化の街としてナニワの名前を復活して、昔、難波宮があったように日本の中心を目指すべきではないか？大阪都構想でなく難波宮構想に転換すべきではないのか？　まず地方からの寄り集まりの東京都を目標にするのではなく歴史と実績のあるナニワの復活こそ大切であると思います。

大阪万博が近づいているいま、日本の中心ナニワの復活こそ大阪、引いては日本の復活の鍵では無いのか？　難波には京・大和など昔からの文化の中心地が控えている、東に移った企業の本社も難波に戻りたいと思うような大構想が大切です。富士山大爆発や首都圏直下型地震も迫っている今、副首都の機能も備えた建設が急がれます。難波宮近くか、生駒山麓の広大な土地に離宮を建造して上皇をお迎えすれば立派な難波離宮であり、首都圏災害時には御皇室の方々に離宮として避難していただくことも出来ます。

次の選挙には都構想などという二番三番構想ではなく難波宮構想として打ち出せば大阪市も大阪府もなくして住民の賛同を得られるのではないか？

尖閣諸島防衛問題

11-18　広島　奥中　正之

11月15日21時から放映された「NHKスペシャル　尖閣“国境警備”ルポ」を視聴しました。中国の海警局艦船4隻が尖閣諸島の我が国領海を侵犯して、遊弋している。それに対して我が国の海保艦船は並列して航行するのみで、警告射撃はしていません。番組に登場した外交筋の政府関係者によると、「外交は消化器のようなものである。炎が大きくならないように制御する。尖閣へ上陸して旗を立てるというようなものではない」と発言していました。尖閣の領有権確保の経緯と現状を考えると、この発言に私は違和感を覚えます。１９７０年代に中国が突然「尖閣は中国の領土である」と主張し始めた時に、何故政府関係者を尖閣に常駐させなかったのか？中国が「尖閣は核心的利益である」と公表した時に、何故自衛隊を尖閣に常駐させなかったのか？「尖閣は日本領土なので、領土問題は存在しない」などと、不作為を取り繕う発言を政府が繰り返えしたのは何故か？日本が控えめに対応しているのをよいことにして、中国は挑発行動をエスカレートさせてきた。このままでは、そのうちに中国が尖閣を占拠し、国際社会もそれを認めてしまうことにならないか！強く危惧します。

清明宮

11/18　東京　三澤浩一

好天に恵まれた先週の平日の朝、清明宮を参拝いたしました。清明宮は、三島由紀夫之命と森田必勝之命を御祭神としてお祀りしています。神奈川県横浜市鶴見区、鶴見駅の近くに鎮座している鶴見神社の摂社です。

楯の会出身の方々のご尽力によって建立されたと聞いています。

ありがとうございます。

学生時代に三島由紀夫研究会で青春をともに過ごした友人たちと一緒にお参りし、三島由紀夫烈士と森田必勝烈士の御霊に追悼・感謝・敬慕の念を捧げました。

子供は天からの授かりもの

11.18 政経調査会　槇　泰智

11月16日、夫婦以外の第三者から卵子・精子の提供を受けて生まれた子供の親子関係に関する法整備を整える法案が与野党によって提出された。　不妊治療に保険適用を進める菅政権では通常の妊娠・出産以外での人工的出産を奨励しているが、その理由は偏に人口を増やす事にある。　しかし、自然妊娠が困難な中で人工的な妊娠・出産を望む夫婦というのは単に子供を産み育てたいと言った個人的欲望に立脚したものであり、政府が望むような少子化の抑制・人口増加やひいては労働力の確保、納税者・社会保険料支払い者の増加、なんていう国の政策に従っている訳ではない。

　不妊治療に保険を適用するなら、その先は第三者による精子・卵子の提供に対しても保険適用が可能となる流れを作ることになる。　更には「貸し腹」という言葉もあるが代理出産も対象としなければ不公平となる。「子供は天からの授かりもの」、と言われる。妊娠しやすい、し辛い体質など人それぞれ。産むか産まないかは夫婦の選択による。結婚したら子供を産むのが当たり前、と言った古めかしい偏見を払拭することの方が重要だ。親からの圧力や偏見に晒され世間体を気にして不妊治療に励む夫婦もいる。

　不妊治療に保険を適用し誰もが気軽に不妊治療が受けられるようになれば、子供を持たない夫婦においてはなお一層世間からの偏見に晒される事となる。

「あら、お宅は不妊治療を受けないんですか？」、などとのたまうお節介焼きも出てくる。

　天皇陛下が皇太子時代の婚約会見で、記者から「子供はなんにん欲しいですか？」、と言った下世話な質問が発せられた。皇太子殿下は「コウノトリのご機嫌にまかせる」、と卒なく回答された。まさに子供は天からの授かりものであることを説いて下さった。

　人工妊娠・体外受精・精子提供・卵子提供・代理出産などなど全ては神の摂理に反した所業ではないか。しかもその目的は将来に渡る労働人口・納税者人口の確保・増加の為というのであればこの国は滅びるぞ。

　むかし関西に、手あたり次第に合う人合う人「子供はまだか、子供は宝だ」などと言い廻っている活動家がいた。私の母親もこの手のお節介焼きだ。一度この御仁に「出産、養育の費用は全部持ってくれますか。」と行ったことがある。他人にもの言うならその程度の覚悟をもって言えよ。自分の価値観を無責任に押し付けるな。と言いたい。しかしこの人は至極マジだから、自分がお節介焼きとは思っていないだろう。マスキ

吾輩は莫迦（バカ）である

11/9　埼玉　村田春樹

吾輩は莫迦である。名前は村田春樹。生まれてこの方ずっと莫迦であり。今後死ぬまで莫迦であり続けるだろう。であるから以下は読まないでいただいて結構だが、御用とお急ぎでない方はよかったらおつきあいください。10年ほど前からわが保守業界の錚々たるインテリ先輩諸氏から、驚くような話を聞かされる。なんとの学会の某名誉会長はとっくに死んでいる。」というものだ。真面目な顔して私に「村田さん。某会長はとっくに死んでるって知っているか？」と訊かれ、傍らにいた方が「そうそう、とっくに死んでるんだよね。」としたり顔で言う。驚愕する。社会的に死んでいる、というのではない。生物的に肉体的に死んでいる、と主張するのだ。あの大の学会の名誉会長が死んだのならそれこそ大々的に報道されているはずだが、さて記憶にない。私も愈々惚けて来たかと思うが、この10年間でその死亡説をまじめに語られたこと十指に余る。死んでいるのに届けない！そんなことがあるのか？たまに遺族が仏さんの年金欲しさに届けないで、腐敗した遺体を家の中に保存して大騒ぎになることがある。まさか某会長の遺族がご本人の年金目当てに死亡を届けてないのではないだろう。そんなことしたら法律違反である。

　この死亡説を唱えるインテリ先輩諸氏は三国志の「死せる孔明、生ける仲達を走らす」を念頭に置いているのであろう。某会長が歿すると学会は大打撃を被るから。その事実を秘匿しているのだそうだ。しかし、考えて見てほしい。秘匿して、ばれたら学会はそれこそ致命的な打撃を受けるだろう。その危険冒してまでなぜ秘匿するのか。学会はすでに某会長の長男と三男により後継体制が確立し盤石のシナリオができているではないか。秘匿するメリットなどどこにあるのか。ちょっと考えればわかるではないか。児戯に等しいガセに簡単に騙される。これは、要は事実と願望を混同しているからだろう。某会長が憎くて憎くてしかたがない。だから死んでほしい、でもまだ死なない（現在92歳）だから死んでるはず、死んでいるのを秘匿しているに違いない、となるのだろう。私は悲しくなる。こんな幼児でもわかるようなガセを信じるわが業界のインテリ諸先輩！溜息しか出ない。

　ガセを信じるか一笑に付すか。これはその人の人生の蓄積そのものだと思う。冒頭に述べたが私は莫迦である。しかし69年生きてきて、その間40年間社会人として働いてきて、膨大な人を見てきて、人間というものを見つめてきた。世に新しいことはないと達観するに至った。誰にも騙されない自信がある。女性は別。騙されたいが誰も騙しに来ない。江戸時代の農村の老婆が、目に一丁字なくても子孫に、「あの男は気をつけろ。近寄るな。」と警蹕をならす。それに近いものがある。私も目に一丁字ないが、ガセには敏感である。要は騙されるのは願望と事実を混同しているからである。さて少し脱線するが某会長が歿したら、すごい大葬儀が営まれるだろう。首相以下高位高官が弔問にそれこそ門前市を成すだろう。私が懸念するのは与党が皇族の弔問を要求するのではないかということだ。そんなことはあり得ないと一笑にふせるならよい。しかし、与党の過去の皇室の政治利用を思いおこすと、あり得なくはない。後藤田正晴を見よ。金丸信を見よ。奴らがどれほど皇室を政治利用いや、選挙利用をしてきたことか。今もまさに政治家

や省庁の役人による「我田引菊」（村田の造語）が行われている。この問題は今日はさて措く。本題のガセに戻ろう。ガセというというのは、事実を見ないで願望を事実と思い込み認識がおかしくなっているのである。

さて本題に入る。アメリカ大統領選挙でトランプは負けた。しかし負けを認めたくないご本人とその熱烈な支持者が、選挙に不正があったと主張している。後進国によくあることだ。バイデン、トランプは全米で拮抗している。ということは選挙管理委員会の中にもトランプ支持もいればバイデン支持者もいるだろう。そんなに簡単に不正が行われるものなのだろうか。不正があってほしいという願望はわかるが、不正がなされるのはあり得ないではないのか。今SNSで飛び交う選挙不正情報がどのような根拠に基づくのか、科学的なのか疑問を持つ。何故ならわたしの人生経験に照らして「そんなことして何の得になる。すぐにばれるよ」民主党政権時、尖閣で海保の巡視船がChinaの漁船に体当たりされ、海上保安官一人死亡したという説が流れた。私は瞬時にガセだと判断した。人が一人死んでどうやって死体を処分したのか、どうやって遺族の口を塞いだのか。あり得ないではないか。これが常識だろう。今回の大統領選挙も常識で考えてほしい。

さて、最後に他国の選挙結果に口角泡をとばしている諸先輩に言いたい。「誰が大統領になろうと問題は日本人なんです」と。近々総選挙があるだろう。私は懸念する。日本のマスメディアは野党を応援してきた。しかしアメリカのメディアほどあからさまではなかった。アメリカのメディアは旗幟鮮明である。それを見て模範としている日本のメディアは、今までは社の綱領だの放送法を遵守しているふりをする努力をしてきた、しかしご本尊のアメリカがあそこまであからさまにやっているのだ、綱領も放送法もへちまもあるもんか！やっちまえー（いてまえー）となってきている。以前よりはるかにはっきりと野党応援支持与党攻撃に寧日ない。確信する。

12年前の民主党政権発足前夜にそっくりになってきている。今回のアメリカの民主党勝利に勢いを得て、日本のマスメディアは、こぞって勢いづいている。「やっちまえー、いてまえー！」である。麻生内閣は発足後リーマンショックへの対応を優先するとして解散を見送り解散の好機を逸して惨敗して政権を返上した。菅内閣はウィルス危機対策を優先して解散を先送りしている。既視感がある。惨敗の予感がする。先輩諸氏はお分かり思う、憲政史上最大の議席を鳩山民主党に与えた「賢明」な有権者はいまだに健在ということを。「賢明」な有権者が、たがが外れたマスメディアに乗せられた、あの悪夢が再現しないとは限らない。長々と書いたが、結論は「他国の選挙なんてどうだっていいだろ！直ちに自分の選挙区の保守系議員の応援に駆け付けるべし。」

私の口癖、「どうなってほしいかと、どうなるかは違う。」区別しないと。

さて、貴兄はバカだ。超保守バカ。『保守バカ』・・○、『バカ保守』・・×

氏には全く同感。御託並べる暇があったら、先ず行動しようぜ！　民主主義の基本は選挙。　マスキ

ブルーリボンバッジを外せ、そんな裁判官がホンマに日本におるんや。

11-13 ナニワの激オコおばちゃん

・・・

川内時男元公立中学校長の教育直言

徳島県立中学校校長　川内時男
http://100prs.info/katudoukiroku/nakama/R2-1-17kawauti/top.htm

25、世界一窮屈な日本の学校（4/29）

日本には「学校は子供の心身を鍛え、学力を身につけるところ」との伝統的な考えがあります。学校というところは、子供がこれから生きていく力を養うための、いわば「道場」と考えられているからです。

メキシコ人や欧米人が考えるように楽しいことばかりであるはずがありません。日本の学校は子供に甘くなったとは言っても、まだまだ「頑張れ文化」が生きています。歯を食いしばって、苦しみながら努力している子供を、大人達は「頑張れ、頑張れ」と応援するのです。蛇足ながら、この「頑張れ」と言う言葉、チリやメキシコではついぞ聞いたことがありませんでした。

欧米と違い、日本の学校は「道場」ですから、窮屈さがあるのは当然です。私は日本の学校の窮屈さは世界一だと思っています。固い椅子に何時間も座らされ、先生から、よそ見をするな、無駄話をするな、机にもたれるな、ひじをつくな、背筋を伸ばせ、宿題を忘れるな、時間を守れなど、これ以外にも挨拶や、整列、頭髪、制服の決まり・・・まるで修行そのものです。外国人が聞いたら「虐待ではないか」と思うことでしょう。しかし、これがあるからこそ日本人の高い集団性が育つのです。集団性などと言えば、欧米教育を信奉する学者先生達から「戦前の軍隊のような教育」と、目を剥いて叱られそうですが、これは大事なのです。郵便物が間違いなく届く日本、災害時に整然と行動できる日本人、これらは日本人の集団性があるからなのです。

アメリカンスクールで学んで帰国した「帰国子女」の中には、日本の学校の窮屈さに絶えられない子供が多くいます。このことで日本の学校を批判する学者先生がいますが、見当違いです。帰国子女達が伸び伸び生活できる学校があるとすれば、それはすでに日本の学校ではなく、日本にある欧米の学校でしかありません。我が国の学校は日本人を育てるための「窮屈な学校」なのです。それに馴染めないなら、普通の公立学校ではなく、帰国子女を受け入れている学校に通わせるほかありません。

マスコミは厳しい校則をバッシングしますが、我が国の学校文化を深く理解する必要があります。

26、我が国を支える日本人の「集団性」と質の高い労働力（5/5）

我が国は世界でも希なほどに便利で快適な国です。当たり前のように水道水が飲めて、郵便物は当然のように届き、女性は平然と夜の街を歩きます。社会は精密機械のように機能し、警察官から理不尽な暴力を受けることがなく、また権力者の悪口を言っても逮捕されることがありません。多くの日本人はこれを当たり前のように思っているでしょうが、こんな国が他にあるでしょうか。これらは日本人だからこそ出来るのです。こう言えば「そんなこと、その気になればどこの国でもできるではないか」と思われるかも知れません。また「集団性」などと言うと条件反射のように「戦前の軍隊教育」と拒絶反応する人がいます。しかし９年間を海外で暮らして分かったことですが、これは日本人の質の高い労働力があればこそ出来る奇跡なのです。

「日本人の労働力の質の高さ」と言えば、多くの人は職人がもつ「匠の技」を連想するかも知れません。それも労働力の質の高さでしょうが、今私が言っている労働力の質というのは、「労働力の信頼性」ということです。具体的に話しましょう。

私がチリ、メキシコにいた頃に何度も経験したことです。衣料品専門店で買い物をする場合、店員と話をし購入する品物が決まると、まず店の奥にあるカウンターで金を支払い、領収証を貰い、それを商品受け取りカウンターで渡して商品を受け取るという、ややこしい手順を踏みます。つまり客一人が服を買うのに、客に応対する店員、金を受け取る店員、商品を手渡す店員と、３人もの別々の店員が関わるのです。「大都会の役所ではあるまいし、なんでこんな非効率なことを」と不思議に思っていましたが、ある日系の方から話を聞いて納得しました。「客との応対、現金の扱い、賞品の受け渡しを一人の店員に任せると、商品や現金をネコババするなどの不正が起こるから」ということでした。つまり店の経営者は店員を信用していないのです。学校の事務員に「××色の画用紙を買ってくるように」と頼んだら、数日待っても画用紙が届かない、本人に聞いてみると「頼まれた色の画用紙がなかったから」と言います。「それならそうと、店にいるときなぜ学校に連絡してこないのか」と聞くと「そんなことは言われていないから」と言って平然としています。言われたこと以外は一切しない・・・全く子供の使いそのものです。いや日本なら小学生の子供でも、それくらいの気は利かせるでしょう。昨日や今日に雇ったおばちゃんをレジに立たせて現金を扱わせる日本は、彼らから見れば信じられないことでしょう。それほど日本人の労働力の質は高いのです。大事なことは、このような日本人を多数生み出している原動力は教育（学校教育だけとは限りません）の力だと言うことです。「近頃の若いモンは」と愚痴をこぼしている年配者の皆さん、私は断言します。彼らはさほどに無能ではありません。街をうろついている茶髪の兄ちゃんでも中南米へ連れて行けば間違いなく「超」がつくほどの優等生です。こういう若者を数多く輩出している日本の社会・・・まさに「教育は国の礎」です。

杉田兼一の歴史・時事研究室

「草莽の記」より
https://plaza.rakuten.co.jp/seimeisugita

昭和天皇のご聖断

2020.10.26

私が、知事リコール活動になぜに立ったか。慰安婦問題や国旗を棄損する問題や英霊侮辱の展示などすべてとんでもないトリエンナーレ。ここまで「芸術」が下劣になり「堕落」したことに怒りを覚えるのも確かであるがそれは哀しいが今までも幾度もあった話。しかしリコールに立つ友と話をすると最大の契機は昭和天皇への「攻撃」「貶め」を知ったこと。

署名に来てくださる方、情宣カーのもとに署名に来てくださる方の多くは日本人の心の襞にかかわる問題、陛下と国民の絆を断ち切ろうとする悪しき糸に対しての怒りにあるようである。この感覚は日本人なら誰しもわかるもの。地下水のごとく僕らの血液の中を流れる共感意識といえるのでは。

今一度、かつて講演録を書き起こした資料を読み返す。

文責は愛知の教育を考える会。

ご講演　迫水（さこみず）久常氏

迫水 久常（明治35年 ～昭和52年）は、日本の大蔵官僚、弁護士、政治家。位階は正三位。勲等は勲一等。

内閣書記官長（第51代）、総合計画局長官、貴族院議員、衆議院議員（2期）、参議院議員（4期）、経済企画庁長官（第9・10代）、郵政大臣（第17代）、鹿児島工業短期大学学長（初代）などを歴任した。

終戦秘話

私が今日お話しをしようと思いましたことは、終戦が出来ました事は全く天皇陛下のお陰であるということを申し上げたいと思うのでございます。

終戦内閣成立

鈴木貫太郎内閣ができましたのは、昭和二十年の四月七日であります。当時の習慣によりまして総理大臣の歴任者、いわゆる重臣と称する方々が集まって、小磯内閣の後の総理大臣の候補者として鈴木大将を推薦されたのを陛下ご嘉納あそばされまして、大命が降下したわけであります。組閣直後、鈴木総理大臣非常に慎重でございまして、戦争をやめるっていう事は決しておっしゃいませんでした。東郷外務大臣の入閣が、一応一日遅れたんでありまするが、それは東郷外務大臣が鈴木大将に、「あなたが戦争をやめる気ならば、自分は外務大臣になる」とこう言う。「どうしても鈴木大将は、戦争をやめるとおっしゃらない。だから入閣はしないんだ」ということで東郷外務大臣が頑張られたのであります。

私は何回か東郷外務大臣のお宅にお伺いしまして、「総理大臣の顔をご覧なさい。あの勇気の持ち主でありますから、戦争をするにせよ、やめるにせよ鈴木総理大臣をご信任になって入閣してください」っていうことを私はお願いに行ったことを覚えております。

総理大臣は、組閣後直後、「直ちに日本の国力の真相を究めるように」というご下命がありました。陸軍海軍、企画院そういうようなものが本当の材料を持ち合って検討をいたしました結果、日本が組織的に経済を運営し、また、行政っていうものを全国統一的な立場でできるのは、昭和二十年の九月いっぱいという判定をしたのです。そういうことで、九月を過ぎると日本の経済は断片的になる。行政も断片的になる。そのために鈴木内閣では、各地方總監府というものを設置することを決めたのでありますが、したがって戦争も組織的にはできずにゲリラ的になってしまうことになるだろうという判定を下したのが、四月の末であります。

国際情勢の判断においては、ソ連がソ満国境に兵力を集中しておるが、ドイツの戦争が終わったあとソ連は復員することなくソ満国境に兵力を集中しはじめまして、その態勢の整うのが概ね九月。こういうのが陸軍の判定でもありまして、なんとしても九月いっぱいまでには戦争を終結しようということをご決心になったのが、四月の末だと思います。爾来、いろいろご腐心になりましたが、鈴木総理の胸中には二つの条件を考えておられたようであります。そのひとつは、国体の護持であります。天皇制は絶対に確保する。もうひとつは、民族一本の姿で戦争を終結しなければならない。こうお考えになったことです。陸軍が、どうしても戦争をやめないと頑張っておる以上は、あるいは戦争をやめることはできても、軍と民との間の内乱的な状態になったり、軟派と硬派との間の分裂が起こったりすることの無いように、民族一本の姿で戦争を終結することができるようにしたい。この二つが戦争終結の条件であるというお考えでありましたから、どうしてもきっかけを探さざるを得なかったのであります。

六月二十二日という日は、我々は忘れることのできない日であります。この日、天皇陛下が総理大臣、外務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、軍令部総長、参謀総長の六巨頭をお集めになりました。この六巨頭は、最高戦争指導会議というものを構成しておって、日本の最高の意思を決める機関であります。内閣書記官長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長、および内閣総合計画局長官の四名がこの最高戦争指導会議の幹事という立場にたっておったのであります。最高戦争指導会議の構成員たる六巨頭をお呼びになりまして、本土決戦ということについてのお話がありました。

いろいろ奉答をみな申し上げたんですけれども、最後に天皇陛下から「これは命令で言うのではないが、懇

談の立場で言うのであるが、自分の希望としては、戦争を一日も早くやめるように工作してもらいたいということを希望しておる」というお言葉が、六月二十二日に、この最高戦争指導会議構成員の会合において行われた。お言葉があったのであります。これで日本の方向は決まりました。しかし、阿南陸軍大臣は、もしそのことが下のほうにもれるというと、或いは、異常な事態が起こらんとは限らん、クーデターが起こる恐れがある。二・二六事件を上回るクーデターが起こって、天皇陛下ご自身を秩父宮様とでも代わっていただこうっていう者も出てこないとも限らない。厳重に、このことは極秘にしておいて六人だけで工作を進めていきたいと阿南陸軍大臣がご希望になりましたもんですから、その含みでやったのであります。それ以後、六人の巨頭はしばしば会合されました。

仲裁をソ連に

そうして遂に、ソ連に仲裁を頼むという事を決めたのであります。私は、東郷外務大臣が非常にそれに反対をされたことを覚えております。どうしても仲裁が必要と考えるならば、むしろ蒋介石に仲裁を頼むほうがいいんじゃないかってことを東郷外務大臣は言われたのであります。しかし、陸軍は、おそらくソ満国境の状態が緊迫しておって、むしろこの際、ソ連に仲裁を求めることのほうが、ソ満国境から侵入してくることを未然に防ぐひとつの手段になると考えただろうと私は判断しますが、非常にソ連に仲裁を頼むことを主張しましたので、近衛文麿公をソ連に特派して、そうして、ソ連に仲裁を頼むことを決めたのであります。

ソ連は、そのことについて、いろいろなことをサウンドしてきたことは事実でありますが、七月の十五、六日になりまして、モロトフおよびスターリンは、ポツダムの会議に出席をするからベルリンに行くと、日本からの要請には、ポツダムから帰ってきてからお答えをするっていうことを言い残してモスクワを後にしてしまいました。政府は非常に焦慮して、佐藤尚武大使に、出来るならポツダムに追っかけて返事を取れということまで指令したのでありますが、その事はついに出来ませんでした。

ポツダム宣言提示

ポツダム宣言がでたのは、その直後であります。七月二十六日、突然としてポツダム宣言が出てまいりました。英国、米国、中華民国の三国の署名であります。

東郷外務大臣は、このポツダム宣言がでましたときに、その次の閣議において、「これは、今までのアメリカのいってるのとは全く違う。今までアメリカは、国家として無条件降伏を要求しておったのに対して、八個の条件を掲げておる。そうして、その条件を日本国政府がのむならば、戦争は終結しようという条件付きの戦争終結の提案の形になっておる。これを受諾することによって日本国の存在が亡くなることは無い。日本国は、厳重に主権を保持しつつ戦争を終結しうること、であるから、ポツダム宣言を受諾しよう」と言われたのであります。

Unconditional surrender「無条件降伏」という言葉は、八番目の条項に、『日本国政府は、あらゆる日本の軍隊が無条件に降伏するように処置をせよ』というような表現で Unconditional surrender という言葉が出てきた。即ち軍隊の無条件降伏ということは一つの条件ですが、国家としての無条件降伏を要求しているのではない。そこで、東郷外務大臣、非常にこれを受諾する事を主張されましたが、閣議においては、ソ連に仲裁を頼んでるのにソ連からの報、返事を待とうじゃないかという暫らく様子をみようということで、暫らく様子をみることに決まったのであります。

原爆投下とソ連参戦

八月六日、広島に原子爆弾が落ちました。それで原子爆弾であるということが確定しましたのは、八月八日であります。この日、総理大臣は、明日九日、朝から閣議を開いて正式に終戦の事を論議する。原子爆弾を手にしたる以上、

原子爆弾を持てる国と持たざる国との間には戦争は成立しないっていう事は、陸軍もこれを認めるであろうし、国民は必ず皆がこれを承認するであろうから、もう公式に終戦の事を論議してもいいんじゃないかというお考えであります。

私はその準備をしておりますうちに、九日午前二時、ソ連の宣戦布告を聞いたのであります。私は、その時のことを今考えても全身の血が逆に流れるような憤激を感じます。日ソ間に日ソ不可侵条約というものは厳として存在しておったのに係わらずソ連は、日本からの仲裁申し入れに対し一言の返事もしないで、いきなり戦争をしかけてきました。当時、スターリンは、後で分かったことでありますが、モスクワにおいて、「この日本に対する戦線布告は、日露戦争に対する報復である」という演説をしてることは、皆さまご承知の通りであります。　八月九日の午前十時から閣議が開かれました。原子爆弾の落下。それに、ソ連の戦線布告というという致命的な二つの事実を前にした閣議でありますから、閣議の方向は自ら決まりまして、ポツダム宣言を受諾することによって戦争を終結すべしという議論になったのであります。しかし、阿南陸軍大臣は「陸軍としては、それに同意ができない。このままここで戦争を終結することになれば、国体の護持について我々は確信を持てない。どっかアメリカ兵をいっぺん負かした機会において戦争を終結することなら別であるが、今この段階でこのまま戦争を終結することは、不同意であるというのが陸軍の意思である」と非常に強調されました。そうして、とうとう夜の八時になった。

閣議不統一っていう事は、内閣が総辞職をしなければならないひとつの原因であります。夜の八時ごろ内閣閣議を休憩しまして、鈴木総理大臣が、総理大臣室に帰られました。私は、総理大臣室に行って、「どうされますか」と聞きましたら、「自分は、総辞職をしないで終戦は自分の手で片付けたいと思う」と。「それでは総理、どう

されますか」と聞きましたら、「君は、どういう風に考えるか」と言われますから、私は「真に恐れ多い事でありますが、ご聖断を拝する以外に方法はありますまい」という事を申し上げましたら、鈴木総理大臣は「自分もそう思ったから、今朝、陛下にお目にかかった時にその事はお願いしてきてあるから、その段取りをとるように」というお言葉があったのであります。

御前会議とご聖断

どういう方法でご聖断を仰ぐ機会をつくるかということについて私はいろいろ考えまして、最高戦争指導会議を開いて、その席に天皇陛下のご親臨を仰いで、そうして、その席上陛下のご聖断を賜るという処置をとることに決めたのであります。私は、その時に非常に考えましたのは、ポツダム宣言を受諾するっていう事は、条件付の向こうの提案をのむことでありまするから、一種の条約になる。条約っていうことになれば、当時の制度では、枢密院の批准を経なければならないという議論が起こってくることは必至でありまするから、鈴木総理大臣に、「この御前会議には、最高戦争指導会議には、特に思し召しを拝して、枢密院議長平沼男爵を参加せしめられてはどうですか」っていう事を申し上げまして、鈴木総理大臣は「それなら君がそうするように」という事で、太田耕造先生が遣いになって行かれまして、平沼男爵にその最高戦争指導会議に参加をしていただきました。この御前会議、八月九日の御前会議と称する第一回の御前会議であります。この御前会議が開かれたのが、昭和二十年八月九日の夜の十一時。鈴木総理大臣が議長、私はいわば進行係のかたちで会議は進行しました。鈴木総理から閣僚、その列席者、構成員を一人ずつ指名しまして発言を要求しまして、最初に東郷外務大臣が理路整然とポツダム宣言を受諾する事によって戦争を終結すべきという議論をされました。

次は、阿南陸軍大臣が冒頭に、「私は東郷外務大臣の説には反対であります」と言呈をされまして、「このままで戦争を集結するっていうことについては、国体の護持おぼつかない。止むを得ない。本土で敵を迎え撃って必ず勝たなければならない。本土で決戦をするっていう事は、自分は必勝とは申しえませんが失敗ではありません。人の和があり地の利がある。必ずやアメリカ兵を撃退する事が出来ると思います。」声涙共に下るというのはあの事を言ったのだと思いますが、両頬に涙が流れるのをお拭いも何もせず、阿南陸軍大臣は仰せられました。

その次、米内海軍大臣は、極めて簡単に本当に一言、「自分は、東郷外務大臣に同意であります」と言いわれただけです。平沼男爵は、いろいろな質問を軍務の大臣、外務大臣等にされまして、結局、東郷外務大臣の説を支持する立場をお示しになったのでありますが、梅津参謀総長、豊田海軍軍令部総長は、それに対して、阿南陸軍大臣に同調する意見を申しまして、三対三という立場になったのが八月十日の午前二時頃であります。

そこで鈴木総理大臣が立ちまして、「これだけ議論したけれども、議論は結論を得られないが、事態は極めて緊急であって、一刻の猶予も許さない状態であるから、甚だ先例も無く恐れ多い事であるが、ここで陛下の思し召しを伺うことによって我々の決心を決めたいと思う」こういう事を宣言をいたしまして、天皇陛下の前に進んで丁重にお辞儀をされまして、その事を陛下にお願いをしました。天皇陛下は、左手をこうお出しになって、自分の席に帰れとお示しになりましたのち、体を前にお乗りだしになるようにしてお言葉があったのであります。

「自分の考えは、先ほど東郷外務大臣の申したことに賛成である」とおっしゃいました。一瞬間、私は、胸がつまりまして涙が目からほとばしりでて、机の上に置いてあった書類に涙の跡が残った事を覚えております。部屋は、たちまち皆すすり泣きの声から、やがて声をあげて泣きました。天皇陛下は、白い手袋をおはめになった御手の親指を眼鏡の裏にお入れになって何遍か眼鏡の曇りをお拭いあそばされました。陛下もお泣きになっていらっしゃるという事を私達は拝したのであります。

思いがけなく天皇陛下のお言葉が続きまして、「念のために理由を言う」という事をおっしゃいました。「自分としては、先祖から受け継いできたこの日本国を子孫に伝えなければならないが、本土で決戦をするっていうことになれば、日本国民のほとんど全部の者が死んでしまって、そのことを実現する事が出来なくなると思うから、甚だ耐え難いことであり忍びたいことであるが、ここで戦争をやめて一人でも多くの日本国民を救いたい。その場合、自分はどういうことになっても一つも差し支えない」という事をたどたどしく途切れ途切れに仰せられたのであります。私達は、本当に泣きながら陛下のお言葉を拝しました。「大勢の戦死者が出ているが、その人たちの事を考えると。自分の胸はまったく痛む」というお言葉もありました。やがて陛下のお言葉は終わりまして、鈴木総理大臣から天皇陛下に入輿を、ご退席をお願いしまして、そのあと私どもは残りまして、会議を続行したのであります。陛下ご退席のときのお姿を私は目の前に今思い出すことが出来ますが、後ろから体を支えてあげなければと思うほど、お疲れのご様子でたどたどしい歩き方でお席をお立ちになったことを覚えております。後に残りました者の会議において、日本国天皇の命によって日本国政府はポツダム宣言を受諾。但し、ポツダム宣言に要求事項が掲げられておるが、そのポツダム宣言の要求事項の中には、天皇の国家統治の大権を変更する要求は、これを含まざるものと了解す。即ち天皇制の護持という事が条件としてだっということを言って、それをあなた方のほうは、当然天皇制を廃止せよなんていう事は要求していませんね、この諒解を確認せられたいという条件をうったのであります。これに対する返事は、まいりました。正面からその通りという返事はしてきませんでした。　日本国の最終の政治の形態は、日本国国民の自由に

表現せられたる意思によって決定するものという回答が来たのでございます。ところが、その返事を受け取りました日本は大騒ぎになりました。まず平沼男爵は「この回答は不満である」と言われたのであります。「日本の天皇の御意思は、神ながらの御意思であって、日本国民の意思以前の問題である。然るに、先方の回答は、その事を理解しないで、日本国民の意思によって天皇制の護持するかどうかってことを決めようとしておるが、それは明らかに日本国体の本義と若干違うじゃないか、この際、もう一遍アメリカに対して日本の国体の本義の事をよく説明して、納得のいく説明をとらなければ、自分は同意できない」とこうおっしゃったのであります。鈴木総理大臣非常に困りました。そうして、ついに十三日は閣議を終決にしないで明日まで持ち越すということにして、そのままにされたのであります。そうして、陛下のお力にもう一度おすがりをしたのであります。　九日の御前会議は、制度としての会議でありました。へん臨を仰ぐ、陛下のご臨席を仰ぐ最高戦争指導会議。十四日の御前会議、この御前会議は、陛下の思し召しによって陛下の方から最高戦争指導会議の構成員と全閣僚をお召しになるという形の、陛下のイニシアチブによる会議という形です。

　御前会議、九日の時は、人数が少のうございましたから皆の前に机がありました。この日は、人数が多ございましたから椅子だけが、固められて三列に並べられておったのでありますが、ここに一同集まりました。そうして陛下お出ましをいただきまして、そうして、鈴木総理大臣から今日までの経過をご報告いたしました。即ちポツダム宣言を受諾するという返事をいたす。天皇の国家統治の大権は変更せざることを潜考する、その旨の条項は入っていないってことを確認せられたいっていう条件をつけた。それに先方としてはそういう返事が来たということをご報告をました。

「これについて異論のある者もございますから、異論のある者から陛下にその意見を申し上げる事をお許しを願います」と言いまして、阿南陸軍大臣、梅津参謀総長、豊田海軍軍令部総長の三人がこの席上で発言をされたのであります。私は、この時の阿南陸軍大臣のお話にも感激をしました。本当に、本土決戦の覚悟を披瀝されまして、そうして、もし本土決戦ということについてならざれば、大和民族は全滅して青史、歴史にその名をとどめることこそ民族の本懐であると思うというお言葉も阿南陸軍大臣のお言葉の中にはありました。そのほかは誰も発言を鈴木総理はさせませんでして、豊田軍令部総長の発言が終わりますというと、鈴木総理から「もう発言はございません。陛下の思し召しをお願い申し上げます」と申し上げたのであります。天皇陛下は、非常にたどたどしいお言葉でありましたが、もちろん原稿等はお持ちになってるんではありません。その場所で、本当に搾り出すように仰せられました。「先方の回答、あれで満足してよろしいから速やかに戦争を終結するように」というお諭しがあったのでございます。　陛下は、白い手袋をおはめになった御手で何遍も両方の頬に流れる涙をお拭いになりました。陛下ご自身もお泣きになっておられたのであります。太田文部大臣がおっしゃいましたが、岡田厚生大臣のごときは、椅子にすわっておるのが耐えがたくお泣きになったのを私は覚えております。誰も泣かないものはありませんでした。　陛下は「陸海軍において、もし必要ならば自分がどこに行ってでも説き諭す。軍隊は、逼要な衝撃を受けるであろうから、どこにでも行って自分が説き諭してもよろしい」と仰せられました。「必要であるならば、マイクの前に立って直接国民に諭してもよろしい」というお言葉もあったのであります。陛下のお言葉が終わりまして、鈴木総理大臣が立ちまして、陛下の思し召しを承ったことを申し上げまして、陛下はご退席になりました。そうして我々閣僚は、総理大臣官邸に帰って閣議を継続して、ポツダム宣言を受諾という事を正式に決定して、その日の午後の閣議で終戦のご詔勅の審議に入ったのであります。終戦のご詔勅の審議につきましてもお話をしたい事は数々ございますけれども、「万世の為に太平を開く」と言う言葉が中心であります。そうして、これから陛下がそのお言葉の中に「これから先、再建は非常に困難であるが、自分も国民と一緒に努力をする」というお言葉があったことを表現するために、「朕は、ここに国体を護持しえて、常に爾臣民と共にある」っていう言葉が、あのご詔勅にはあるんです。本当に陛下が国民の中に帰っていらしたような感じがしました。

　終戦後二十五年、今日の繁栄をもちました。これは、私は、経済学的には、自由貿易であるとかアメリカの恩恵であるとか、蒋介石の恩恵もあるんだ・・・いろいろ言いますけれども、私は、たったひとつ考える事は、終戦後、厳として天皇陛下がご存在になっていらっしゃるから、今日の日本の繁栄があるんだということを、私は確信をいたしておる次第でございます。

講演以上。文責　教育を考える会

野分祭に参加

2020.11.25

　昨日は四日市の森田必勝大人命の慰霊祭野分祭に参加させていただく。

　義挙を身近にされていた皆さんの真摯な慰霊の儀式、野分祭の重さは私如き人物など到底参加する資格がないと思って長年過ごしてきたが、今年は50周年の祭礼であるため、末席を汚させていただいた。正当な活動をなされて見える方々の人格の重さに恐縮しながら玉ぐしをささげさせていただき感慨無量。こうして三島森田両烈士の御存在を義挙の精神を50年にわたって受け継ぎ各分野で御実践なさって見えた主催者の皆様の意思のみなぎるお顔の美しさ高貴さに痛く感銘を受けました。

連合艦隊各艦の予定・活動報告

NPO 法人百人の会

●MPO法人百人の会勉強会について
今年の２月より世間を騒がしているコロナ、おとなしくなるまで勉強会、総会も中止し、収まって来たら再開することにしておりました。ボチボチ小康状態かなと思い、11月1日の大阪都構想の住民投票が終わってから再開する予定で、そのように皆様にもお知らせいたしました。ところが、住民投票が終わってみると今度は第３波。人間の試練は続くようです。いつ終わるとも読めないコロナ騒動。日程はもう少し状況を見て決定しご連絡いたします。決して忘れてはいませんので念のためご連絡いたします。

台湾人日本国籍確認支援の会

●原告　楊馥成（高雄市）許華杞先生（理学博士）林余立氏の台湾人３名
●被告　日本政府
●訴訟の趣旨　「我々は日本人であることを認めよ！」
●経過　2019-10-7　大阪地裁に提訴　東京地裁へ移送　2019-7-1、同12-1　弁論前協議。コロナのため口頭弁論ストップ原告、台湾のため来日できず。国際便正常運航待ち。

松井市長、辞めるな！
辞任表明に強く抗議

11月1日、大阪都構想で否決された住民投票。その責荷を取ってと言うことだろうか、松井市長が次回選挙にはでないと、政治家引退を表明された。アカンで。我々は同26日、早速市役所の前で「松井市長、辞めるな！」と声を上げた。

【配布ビラ現行より】
松井市長は、住民投票の行われた夜、「市長辞任」を表明されました。
「辞任、ちょっと待った！」冗談じゃない!!。　住民投票で勝ったのなら辞任も一つの方法。しかし、「だれが首長になろうがあの暗黒の大阪に戻さない『制度改革』が必要。」これが大阪都構想の趣旨ではなかったですか。それなら敗けたのだから、「だれがやっても」とはならないでしょ。終身とまでは言わないが、さっさと辞める。それはアカンと思います。敗けた責任は市長を続けることで取っていただきたい。うちら「話の筋」にはちょっとウルサイで～。辞意が「美学」などと思ったら、とんでもない勘違い。泥を舐めてでも生き残ってください。それが大阪市民を守る武蔵坊弁慶、千本の矢を受けても、今こそ「松井の立ち往生」。

松井さんと吉村さんが決めてきた万博。テープカットはお二人以外にだれがやるの。何のためにフランスまでトイレットペーパーを持っていったの。あなた方は二人三脚ではなく、二人で一人前でしょ！　『激励』ちゃうで、『抗議』やで　／(^_^)／
松井市長の辞任に抗議する大阪市民の会

原稿・同封資料の募集、メール配信について

本紙に掲載ご希望の論文、情報等どんどんメールでお送りください。また、弊紙は郵メールで発送し、重さ制限は50g です。まだ10g 程度余裕がございますので、資料等の同封が可能です。ご相談ください。
●**弊紙は購読料は頂戴しておりません。**

活動資金ご協力のお願い
郵便振替 00980-8-245547　MASUKI情報デスク
ゆうちょ銀行 089-0245547　MASUKI情報デスク
三菱UFJ銀行 千里中央支店 0043349　普通　増木重夫

編集後記

皇室は、「筋を通す」最後の砦。
日本の伝統文化、古来からのしきたり、言い伝え。これらは時として現憲法と矛盾することがある。今回の眞子殿下の結婚問題。私は秋篠宮殿下の胸中を察すると、言葉がない。父親としての子を想う気持ち。だれよりも憲法を尊重するお立場。さらに公的立場への配慮。
父親として娘のやりたいようにやらしてやりたい。ところが夫予定者は今一つ将来の収入がハッキリしない。ここまでは一般のどこの父親にもある悩み。しかしそれを受け入れないと憲法にも反する。自分はだれよりも憲法を順守する立場。ところが「納采の儀」、皇室離脱となると１億数千万の税金が動く。国民が納得できないことは絶対にできない。「結婚は認めるが婚約は認めない。」筋を通したい殿下の苦悩が察するに余りある。増木